

(株)大阪城ホール中期経営計画について

(令和3年度)

令和2年12月策定

大阪城ホールは、大阪の国際化、文化、スポーツの振興に寄与することを目的に、大阪21世紀計画のメモリアルホールとして、昭和58年10月にオープンしてから本年度で37年目を迎える。

中期経営計画は、経営に関する向こう3年間の具体的な取組みとして策定し、3年ごとに改定してきた。現行の中期経営計画(平成30年度～令和2年度)は、令和3年2月に改定時期を迎えるが、令和2年2月から全国的に広がった新型コロナウイルス感染症の影響によって安定的なイベントの開催が困難となり、経営の先行きが不透明な状況であるため、この感染症が一定落ち着くまで中期経営計画の改定を延期する。

I 現状

新型コロナウイルス感染症の当社への影響は、令和2年2月下旬から始まり、3月～7月のイベントはほぼ全て中止となり、8月からやや持ち直してきた状況であるが、9月末現在の令和2年度上半期の稼働日数は僅か24日、去年同期168日に比して144日の大幅減となっている。また、事業収入においても稼働日数に比例して僅か1億18百万円と去年同期10億70百万円に比して9億52百万円、率にして88.9%の大幅減となり、損益計算上では3億74百万円の赤字となっている。

II 今後の見通し

内閣府の10月例報告では「感染症の影響が依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きも見られるようになり、先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ社会経済活動のレベルを引き上げていく中で持ち直しの動きが続くことが期待される」と述べている。当ホールにおいても10月以降の下半期については、上半期に比べて持ち直しの動きが見られるものの、最も利用が多い音楽分野の全国ツアーイベントの回復状況が不透明であり、本年1月までのようなイベント開催状況となる目途は立っていない。

一方で、令和3年度の予約申し込みは回復傾向にあり、この感染症が終息に向かえば、急速に利用が増加すると見込まれるが、感染症の終息時期が予想できない現時点では、計画策定が困難な状況にある。

Ⅲ 令和3年度の取り組み

(1) 営業活動

これまで当ホールでは、収益性を高めるため、コンサートなどのイベント事業を重点的に誘致してきたが、この感染症の影響によりコンサートなどの音楽イベントの開催状況が大きく変化しつつある。今後、ライブ・エンタティメント業界の動向を踏まえつつ誘致ジャンルの検討を行い、営業活動を進める。

(2) 安全管理対策

ホール施設の管理運営に当たっては、安全・安心・快適な施設づくりが最も重要であるが、万が一不測の事態が発生した場合により万全の対応を期することができるよう危機管理マニュアルを改定する。

(3) 建物・施設の改修・整備等

改修・更新工事等の確実な実施は、ホール建物・施設の寿命を延ばし、修繕費を抑え、結果として施設維持にかかる長期的なコストの縮減・平準化につなげることができる。当ホールでは大規模改修工事を令和4年1月から2月にかけて58日間閉館し約30億円かけ実施する予定であったが、この感染症の影響を受け、今年度だけでも10億円近い赤字が見込まれるため、経年劣化の著しいものなど優先度の高い工事に限定し規模を縮小して実施することとした。

また、建物・施設の改修・整備等については、別途施設・設備の計画的な改修・更新工事等を定めた「中長期保全計画」（平成28年9月改定）があり、令和3年度はこの計画に基づき縮小した大規模改修工事を含めた更新工事等を実施する。

なお、「中長期保全計画」については改定時期を迎えるため新たな保全計画を策定する。

○中長期保全計画に基づく施設・設備の更新工事等

年 度	工 事 内 容
令和3年度	舞台照明設備調光卓更新工事、舞台音響設備調整卓更新工事 ホール系統空調機自動制御盤改修工事、南諸室系統ヒーポン チラー整備工事

(4) 人材育成、勤務労働条件の改善等

将来を担いうる優秀な社員を計画的に採用するとともに、社員の企画立案力等の向上や経営幹部の育成、給与制度等の労働条件や労働環境の改善について検討を行う。

また、深夜業務を含む変則勤務の勤務実態を十分考慮した労働安全衛生対策と社員の福利厚生面の充実に取り組む。